Jingumae Elementary School
渋谷区立
神宮前小学校

2021.7.7

1. シブヤモデルの実現（未来の学校に向けた学びの改革）
2. 安全・安心に挑戦できる環境
3. 働き方改革（何を減らし、止め、効率的にクリエイティブに行うか）

1-①シブヤ科

本校の子供たちを「水車の子」と呼んでいる。語源は、葛飾北斎の「隠田の水車」に遡る。校庭にある水車は、江戸時代に穏田川（キャットストリート）にかけられていた水車の模型で、学校のシンボルである。この水車から、「自然エネルギーを巧みに利用していた先人の営み」をリスペクトし、地域の自然と歴史を調べ、現在の自分たちの生活を見つめ直し、未来を切り拓く子供たちを育てていく。

水でつながる学び

低学年生活科（水遊びで、水の感触・水圧・浮力を体感する。）
＊生活科見学　野川公園で、湧き水の流れで水遊びをする。
中学年社会・理科・総合（渋谷・東京の地形、地面を流れる水）
高学年社会・理科・総合（流れる水の働きと水害、豊かな水資源）

明治神宮の表参道からつながる学び

中学年社会・理科（代々木八幡遺跡、街路樹でつながる豊かな自然）
高学年社会・算数・理科・総合（5年で明治神宮調べ、６年鶴岡八幡宮日光東照宮の見学へ。明治神宮は新しくて、科学的な根拠に基づく鎮守の森が作られたことを知る。5年代々木公園の豊かな自然の中で吟行を行う。5年算数「平均」の学習で「歩測」を学び、表参道の長さを歩測で求める。6年「江戸時代の伊能忠敬と伊能図」につなげる。

＊自然エネルギーを巧みに利用していた先人の営みからSDGsにつなげる。

1-②ＩＣＴでつながる学び

タブレットを道具とし使い、学習者用デジタル教科書を効果的に活用した授業を行う。ファイルサーバーやTeams、ミライシード、OneNoteなどクラウドを活用した「ICTでつながる学び」を積極的に行う。

プログラミング教育は、国語科の「情報の扱いに関する事項」主軸に各教科・領域の学びを関連付けて指導し、「プログラミング的思考力の育成」を目指す。4年生以上は、ローマ字入力や英語で学ぶプログラミングを行う。ALTの英語の指示でスクラッチやプログラミングアプリに取り組む。

ICTを用いた豊かな表現力の育成

低学年生活科　学校のお気に入りや町探検をタブレットで撮影し、絵日記や模造紙にまとめる。
中学年総合　調べたことをオクリンクでつなげたり、パワーポイントでまとめたりする。
高学年総合　調べたことを共同編集して、ホームページで発信したり、動画でまとめたりする。

＊11月12日（金）「渋谷タブレットの日」公開授業

全学級において「ICTでつながる学び」の実践を公開する。

神小6年間の「つながる学び」を通して、目指す児童像

自ら考え高め合う子 *Intelligence Aspiration*
進んで実行する子 *Activity Responsibility*
健康で心豊かな子 *Friendship Healthy life*

☆神宮前地域を基準に考えられる子（表参道の長さ(約1.1㎞)が基準。表参道商店街と比べて考える。）
☆SDGsについて自分の考えをもち、行動できる子（自然エネルギーの有効活用や環境保全活動。）
☆地形と水の流れが読める子（暗渠の川や河岸段丘が分かる。水害の予想ができる。）
☆表参道・神宮前・渋谷のことをICTや英語で表現できる子（地域の自然と文化について説明できる。）

2-①いじめのない学校づくり「仲間とつながる活動」

いじめのない学校づくりの基本は、すべての子の人権が守られ、教室に居場所があり、健康で心豊かな子を育む教育活動が行われることである。上級生が下級生の手本となり、リードすることで責任と自覚、尊敬と慈愛のある人間関係が形成され、全校児童が大きな家族のような関係になることを目指す。

- 水車班活動（縦割り班活動）や鼓笛隊の活動を充実させ、6年生がリーダーシップを発揮し、最上級生の自覚と下級生のフォロワーシップを育てる。
- 年3回のいじめアンケートの実施やいじめ防止対策会議を充実させ、いじめの未然防止、早期発見・対策を行う。
- 児童⇔担任の連絡ツールや各種アンケート調査の結果などを活用して、児童の変化を見逃さないようにして、適切な指導を行う。
- 心を育てる教育や「人権メッセージ発表校（5年）」の取組などを通して、子供と教員の人権意識を高める。また、道徳授業の指導・評価の改善を行う。
- 子供の安心・安全を最優先に考え、無理のない教育活動を実施し、定期的な施設点検・管理を着実に行う。
- 健康教育・食育・安全教育の充実。自分の体を知り、健康や命は自分で守る態度を養い、行動できる子を育成する。

2-②インクルーシブ教育

分かりやすい指示や説明のある授業、納得のいく生活指導は、発達に障害がある子だけでなく、すべての子にとって学びやすい環境である。全校児童の学校生活が充実するように、授業改善や学校生活環境の改善を常に行っていく。

- 特別支援教室専門員が対象児童の情報を一括管理し、特別支援教育校内委員会などで情報共有を行い、支援計画をこまめに修正して、児童に関わる。
- 管理職・学校心理士・特別支援教室専門員・特別支援教室教員・スクールカウンセラー・担任・学習支援員・介助員・ＳＡＭなどがチームとして児童に関わり、一貫した指導・支援を実施する。

3 働き方改革（何を減らし、止め、効率的にクリエイティブに行うか）

コロナ禍で、「学校でなければできないこと」と「家庭や地域でできること」が明らかになってきた。「学校でなければできない」交流活動や体験活動を充実させ、「家庭や地域でできること」は、任せていく。校務や成績業務は、デジタル化を更にすすめ、情報活用や関連情報の連携・ビックデータの活用を行い、経験や勘に頼らないデータに基づく効率的な業務を行う。

- 職務に対してコスト意識をもつ。文書管理・備品管理システムに従い、期日と時間を守り、全教職員が効率の良い仕事をする。
- 学校が扱うデジタル情報を整理・分析を行い、個別最適化教育を目指した活用法について、研究・開発していく。児童タブレットの検索履歴・成績・児童アンケート調査・いじめアンケート等の情報をAIなどを用いて分析し、指導・評価・支援に役立てる仕組みをつくる。
- 通知表の改善を行う。学習評価や出席簿・健康診断などの情報と通知表の連携を強化する。また、「外国語＆外国語活動」「道徳」「総合的な学習の時間」の所見をポートフォリオの要素を取り入れたものに改善していく。
- 道徳授業地区公開講座は、特別の教科道徳が本格実施になったので、一般の学校公開の中で行っていく。
- 夏休み中のプールは、社会体育や家庭教育に任せるようにしていき、スポーツ振興課との連携を強めたり家庭に啓発したりする。
- 鼓笛隊や学校図書館運営、給食・清掃などの指導者やスタッフの人材確保を学校運営協議会の協力を得て行い、活動の活性化を図る。